

# 足立区人口推計

令和2年2月

政策経営部 政策経営課

# 目 次

I	人口推計の実施について	1
1	人口推計の実施目的	1
II	推計方法について	1
1	推計方法の概要	1
2	前回（平成27年推計）よりも実人口が上回った原因の分析	4
3	推計方法の詳細	6
	（1）日本人の人口推計の方法	6
	（2）外国人の人口推計の方法	7
	（3）主な推計条件	8
	（4）エリアデザイン地域の人口推計について	10
III	推計結果	12
1	全体推計結果	12
	（1）総人口	12
	（2）日本人人口	13
	（3）外国人人口	14
	（4）年齢3区分別人口の推移 【総人口・中位推計】	15
2	高齢者数の推計（65歳以上） 【総人口】	16
	（1）高齢者人口（65歳以上）	16
	（2）高齢者比率（65歳以上）	17
	（3）後期高齢者人口（75歳以上）	18
	（4）後期高齢者比率（75歳以上）	19
3	生産年齢者数の推計（15～64歳） 【総人口】	20
	（1）生産年齢者人口	20
	（2）生産年齢者比率	21
4	年少者数の推計（0～14歳） 【総人口】	22
	（1）年少者人口	22
	（2）年少者比率	23
5	参考資料1 国や東京都の推計との比較	24
6	参考資料2 地域別 年齢3区分別人口の推移 【中位推計】	25

---

---

## I 人口推計の実施について

---

---

### 1 人口推計の実施目的

- (1) 今回の人口推計は、「足立区基本計画」(計画期間 平成 29 年度～令和 6 年度)の中間検証を令和 2 年度に行うにあたり、将来の人口規模や年齢構成などの推移を判断する基礎資料として活用するために実施しました。

---

---

## II 推計方法について

---

---

### 1 推計方法の概要

- ・現状で求めうる過去のデータを用いて、推計時点における将来人口を客観的に推測しました。
- ・令和元年 11 月 1 日現在の人口まで反映させて最終調整を行いました。
- ・本報告書中の令和 2 年の数値は、令和元年 11 月時点での推計値です。
- ・下表は、今回の推計手法と、平成 27 年に実施した人口推計とを比較したものです。(表内の太字、下線部が特に大きな相違部分)

項目	今回の推計(令和 2 年推計)	平成 27 年推計
推計手法	・ <b>コーホート要因法</b>	・コーホート要因法
推計期間	・ <b>令和 47 年までの 45 年間</b>	・平成 72 (令和 42 年) までの 45 年間 (国が策定を求めている地方人口ビジョンに合わせた。)
推計段階	・ <b>高位推計、中位推計、低位推計の 3 段階で推計</b>	・高位推計、中位推計、低位推計の 3 段階で推計
人口資料	・ <b>住民基本台帳人口(平成 28 年～31 年 1 月)の人口データを活用して推計</b>	・住民基本台帳人口(平成 26～27 年 1 月)の人口データを活用して推計
生残率	・ <b>国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口(平成 30 年 12 月推計)」で位置づけられた足立区の値を使用</b>	・国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口(平成 25 年 3 月推計)」で位置づけられた足立区の値を使用

項目	今回の推計（令和2年推計）	平成27年推計
外国人人口の推計	・直近の実績値に基づく予測値により推計	・コーホート要因法により日本人と一体的に推計
出生率	・国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成30年12月推計）」の「子ども女性比」の足立区の値を使用	・国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」の「子ども女性比」の足立区の値を使用
0歳児の男女比	・国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成30年12月推計）」の「0～4歳性比（男女比）」の足立区の値を使用	・国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」の「0～4歳性比（男女比）」における足立区の値を使用
移動率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町丁目ごとの移動率を原則として平成28年～31年の推移から位置づけた。</li> <li>・期間中に大規模開発が行われた地区、共同住宅の建替え等により一時的に人口減少した地区については適宜補正し、過大（過小）な数値にならないように調整した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町丁目ごとの移動率を原則として平成26年～27年の推移から位置づけた。</li> <li>・期間中に大規模開発が行われた地区については適宜補正して、過大な数値にならないように調整した。</li> </ul>
将来の開発動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築確認申請等のデータにより共同住宅開発が確定している地区について必要な加算を行った。</li> <li>・中長期に渡る開発人口の予測については、年次ごと、町丁目ごとに、移動率により算出される増減数を確認し、適宜補正した。</li> <li>・現時点で建替えが想定される都営住宅については、建替え工事に伴う一時転居や建替え後の一斉入居による一時的な人口変動が後年の人口変動に影響を及ぼさないように適宜補正した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発人口を3つのパターン（高位、中位、低位）に分け、エリアデザインの7つの地区と、北綾瀬駅周辺において開発人口を見込んだ。</li> <li>・過去4年間の共同住宅の建築確認申請及び完了検査のデータをもとに、町丁目ごとに将来の開発人口を予測。開発が見込まれる地区は将来に渡って一定水準の開発人口を付加した。</li> <li>・千住橋戸町、千住緑町一丁目、西新井栄町一丁目は、現在進行中の開発計画に沿って人口を見込んだ。</li> <li>・現時点で建替えが想定される都営住宅では、建替えを見込んだ推計を行った。あわせて、都営住宅の入居者の入替わりを想定した人口補正を行った。</li> </ul>

項 目	今回の推計（令和2年推計）	平成27年推計
集計区分	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 区全体</li> <li>• 町丁目別</li> <li>• <u>5地域30地区別</u></li> <li>• 小学校区別</li> <li>• 中学校区別</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 区全体</li> <li>• 町丁目別</li> <li>• 13ブロック別</li> <li>• 小学校区別</li> <li>• 中学校区別</li> </ul>

## 2 前回（平成27年推計）よりも実人口が上回った原因の分析

- 前は平成27年9月に人口推計を実施しました。結果は、平成29年から高位推計を上回り、平成31年1月時点では、基本推計である中位推計を約5,900人、高位推計を約2,800人上回りました。
- 推計結果よりも実際の人口が大きく上回った原因は、平成27年以降の外国人人口の急増を見込めなかったためです。
- 外国人人口については、年によって増減変動があるものの、平成元年から平成23年までは、平均すると毎年500人程度の増加傾向を示してきました。東日本大震災後に一時的に減少しましたが、その後増加に転じ、平成27年以降は、毎年2,000人程度の急激な増加が続いています。

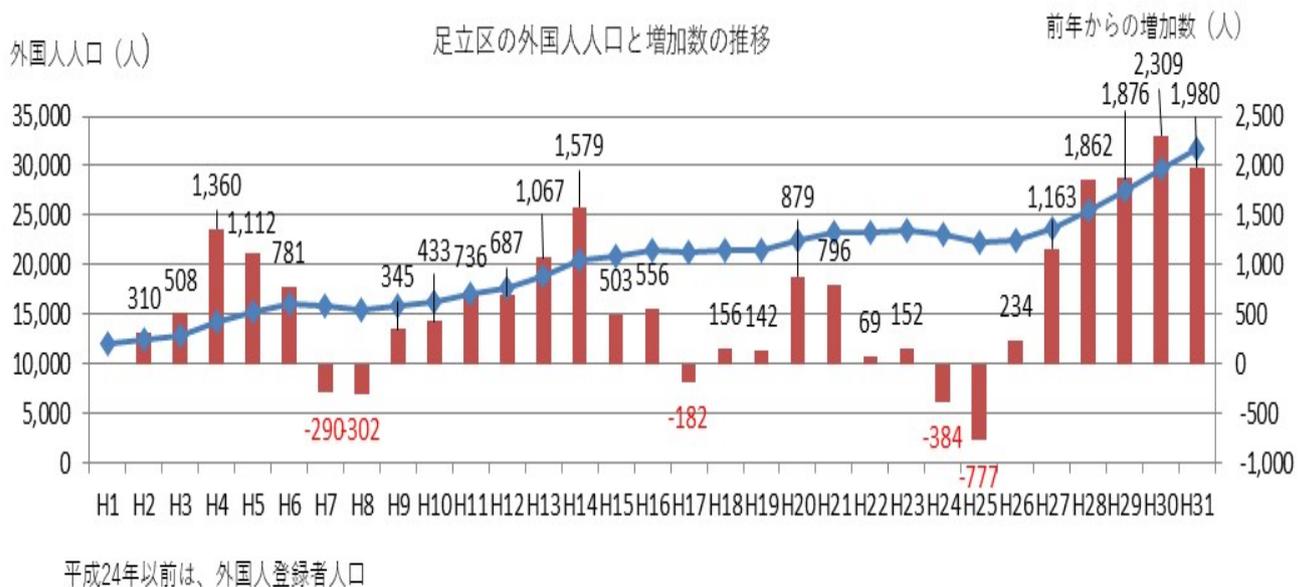


表 令和元年6月時点での外国人の多い自治体

順位	自治体名	在留 外国人数	5年間の 増加率
1	東京都新宿区	43,784	1.21
2	東京都江戸川区	38,045	1.53
3	埼玉県川口市	37,855	1.56
4	東京都足立区	33,555	1.42
5	東京都江東区	31,212	1.37
6	東京都豊島区	30,316	1.46
7	東京都板橋区	28,417	1.60
8	大阪市生野区	28,192	1.00
9	東京都大田区	25,332	1.30
10	東京都北区	23,399	1.52

資料：在留外国人統計（法務省）から作成

表 東京 23 区における過去 5 年間（平成 26 年 6 月～令和元年 6 月）の  
外国人人口の増加率（順位は増加率の高い順）

順位	区名	令和元年 6月	平成26年 6月	増加率	順位	区名	令和元年 6月	平成26年 6月	増加率
1	中野区	20,267	11,971	1.69	13	江東区	31,212	22,746	1.37
2	杉並区	18,609	11,325	1.64	14	墨田区	13,007	9,724	1.34
3	板橋区	28,417	17,763	1.60	15	目黒区	9,796	7,414	1.32
4	練馬区	21,297	13,492	1.58	16	大田区	25,332	19,472	1.30
5	中央区	8,507	5,401	1.58	17	品川区	14,275	11,068	1.29
6	葛飾区	22,804	14,770	1.54	18	千代田区	3,445	2,736	1.26
7	江戸川区	38,045	24,929	1.53	19	渋谷区	11,771	9,541	1.23
8	北区	23,399	15,441	1.52	20	荒川区	19,635	16,070	1.22
9	文京区	11,442	7,606	1.50	21	新宿区	43,784	36,158	1.21
10	世田谷区	23,167	15,856	1.46	22	台東区	16,131	13,458	1.20
11	豊島区	30,316	20,801	1.46	23	港区	21,644	19,706	1.10
12	足立区	33,555	23,600	1.42					

資料：在留外国人統計（法務省）から作成

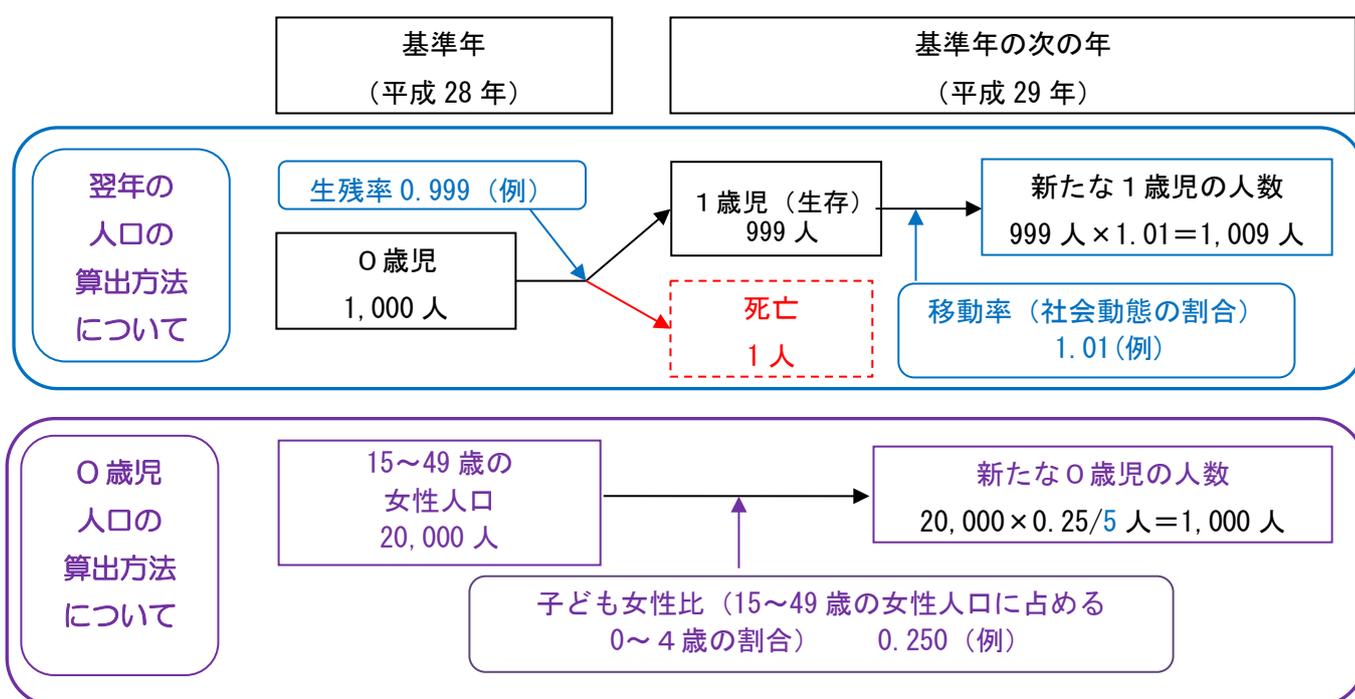
- ・令和元年 6 月時点で、外国人人口の多い自治体の上位 10 位までを見ると足立区は 4 位となっています。しかし、直近 5 年間の増加率でみると、足立区の増加率は東京 23 区の中では 12 位であり、とくに増加率が高いわけではありません。

### 3 推計方法の詳細

#### (1) 日本人の人口推計の方法

- 日本人の人口推計は「コーホート要因法」により実施しました。
- コーホート要因法とは、ある年の人口をもとに、将来に向かって、加齢、出生、死亡、移動（転出入）の要素を算定し、将来推計を行う方法です。
- 生まれてくる子ども的人数については、15～49歳の女性的人数を母数として、子ども的人数の割合を定めた「子ども女性比」という指標により、出生する子ども的人数を定めました。また、男女比については、「0～4歳男女比」により、男女的人数を定めました。

図 コーホート要因法による推計の方法（0歳児で例を示します）

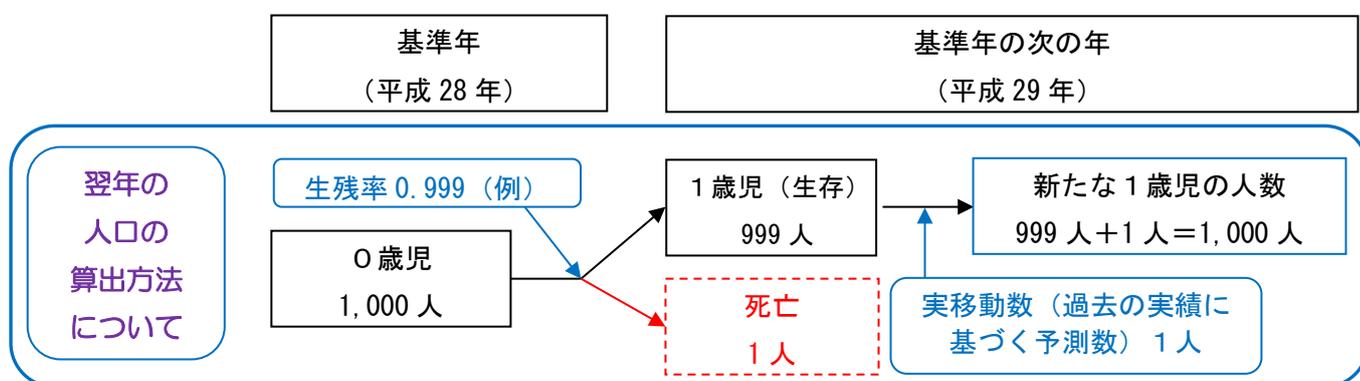


※0歳児の人数は、0～4歳児（5年齢）の1/5とする

## (2) 外国人の人口推計の方法

- 外国人人口の変動は、人口学的要因よりも社会経済的要因による影響が大きいことに加え、統計資料も不足しているため、日本人と同様の方法での精緻な推計が困難となっています。
- そのため、大枠では「コーホート要因法」に準ずるものの、移動率に替えて、実際に増加した「実数」を利用しました。今回の推計では、直近の実績値に基づいて、足立区全体の外国人人口の増加数（総数）の予測値を立てて、町丁別・1歳級別に埋め戻す手法により推計を行いました。
- 転出行動に関するデータがないため、転入後の外国人は定住するものと仮定しました。また、合計特殊出生率、平均寿命等のデータがないため、自然動態については、日本人と同じ数値を当てはめました。

図 外国人の人口の推計の方法（0歳児で例を示します）



(生まれてくる子どもの人数の計算は、日本人人口と同じです)

### (3) 主な推計条件

#### ① 人口

- ・人口資料は、住民基本台帳人口を使用しました。
- ・今回は平成 28 年から 31 年までの3年間の人口変化をもとに推計を行いました。

#### ◆推計で使用したデータ

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・平成 31 年 1 月 1 日 町丁目別・性別・1 歳階級別年齢別人口（住民基本台帳）</li><li>・平成 28 年 1 月 1 日 町丁目別・性別・1 歳階級別年齢別人口（住民基本台帳）</li></ul> |
|---|

- ・なお、外国人人口については、平成 24 年 7 月に住民基本台帳法が改正され、3カ月以上在留している等、一定の条件を満たした外国人が対象となっています。

#### ② 生残率

- ・国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年 12 月推計）」で位置づけられた足立区の値を参照しています。
- ・なお、同指標は、85～89 歳→90 歳までの指標しかいないため、91 歳以上の生残率については、85～89 歳→90 歳の生残率と同じ値を設定しました。また、同推計は、令和 27 年が最終年になっているため、令和 27 年の指標が令和 47 年まで継続するものとして設定しました。

#### ③ 出生率（子ども女性比）

- ・国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年 12 月推計）」で位置づけられた足立区の「子ども女性比」の値を参照しています。なお、生残率と同様に、令和 27 年が最終年になっているため、令和 27 年の指標が令和 47 年まで継続するものとして設定しました。

#### ④ 0 歳児の男女比

- ・国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年 12 月推計）」で位置づけられた足立区の「0～4 歳性比(男女比)」の値を参照しています。なお、生残率や出生率と同様に、令和 27 年が最終年になっているため、令和 27 年の指標が令和 47 年まで継続するものとして設定しました。

#### ⑤ 日本人の移動率

- ・移動率は、生残率や出生率と異なり、地域性や開発動向の影響を強く受けることから町丁目ごとに算定しました。
- ・大規模な共同住宅への一斉入居などの要因によって急激な人口変動があった地域では一時的に移動率の変化が大きくなりますが、長期に継続されることはないため、後年の人口が過大な（過小な）数値にならないように必要な補正を行いました。
- ・日本人の移動率については、今後 5 年程度は、現在と同レベルの転入超過の状況が継続するものの、日本全体の人口が減少していくなかで、将来的には縮小しながら推移していくと仮定しました。

## ⑥ 外国人の移動率

- 外国人人口の変動については、国全体の入国超過数に関連があると想定し、町丁目ごとの移動率は用いず、国立社会保障・人口問題研究所の「外国人入国超過数の推計値」を参考にしながら、足立区全体で毎年一定数が増加するものとして推計しました。
- 当面のポイントとして、留学生の急増や永住資格取得のために中長期に在留する外国人の増加、新たな在留資格（技能労働）などを勘案し、今後10年程度は現在と同程度の転入超過が続き、それ以降は平準化していくと仮定しました。また、転出行動に関するデータがないため、転入後の外国人は定住するものと仮定しています。
- 外国人人口については、経済情勢や国の施策等により大きく変動する可能性があるため、次期人口推計の際に仮定値の見直しを行うことを前提としています。

## ⑦ 開発人口の設定

- 建築確認申請等により共同住宅開発が確定している地区について必要な加算を行いました。
- 中長期に渡る開発人口の予測については、年次ごと、町丁目ごとに、移動率により算出される増減数を確認し、適宜補正しました。
- 都営住宅では、計画的な建替えのため総戸数が抑制傾向にあります。建替え工事に伴う一時転居や建替え後の一斉入居による一時的な人口変動が後年の人口移動に影響を及ぼさないように補正を行いました。
- エリアデザイン地域については、別途、進展状況と将来見込みを整理しました。

## ⑧ 推計単位

- 263町丁目単位（全269町丁目のうち人口0人の6町丁目を除いた）での推計を行いました。

## ⑨ 推計段階

- 高位推計、中位推計、低位推計の3段階で推計しました。
- 中位推計を基本推計とし、転入超過が中位推計よりも高めに推移する想定を高位推計、低めに推移する想定を低位推計と位置づけました。低位推計は転出入数が均衡するものの転出超過までは至らないレベルと仮定しました。

#### (4) エリアデザイン地域の人口推計について

- ・人口増加が予測される地域として、エリアデザインの7地区を想定し、各エリアの動向や開発の進展、今後の社会動態の影響を個別に整理しました。

##### ① 千住エリア

- ・平成28年からの3年間で、開発戸数は約20%減となっています。単身者向けの物件が急増しており、平成30年度においては、ファミリー向けの開発戸数は全体の3%にとどまっています。
- ・地区によって差はありますが、賃貸住宅など空き物件も存在することから、開発計画の有無にかかわらず、エリア全体では緩やかに転入超過の傾向が続いています。今後は限られた箇所で大規模な開発が発生する可能性があります。

##### ② 綾瀬ゾーン

- ・平成28年からの3年間で、開発戸数は約70%減となっています。単身者向けの物件が急増しており、ファミリー向けの開発戸数は限りなくゼロに近づいていますが、利便性の高い地区であり、賃貸住宅など空き物件も存在することから、今後数年間は緩やかに転入超過の傾向が続くと予測しました。
- ・綾瀬駅周辺には駐車場用地も多く、将来のマンション開発の可能性は高いと考えます。今後、足立区も駅周辺のまちづくりを進めていく予定であり、賑わいの創出、歩道の整備等に取り組むため、ある一定期間に開発人口が増える可能性があります。

##### ③ 北綾瀬ゾーン

- ・北綾瀬ゾーンは、他のエリアよりも特に単身者が多く、居住年数も短いことが特徴です。平成30年において、開発戸数166戸のうちファミリー向けはわずかでした。
- ・東京メトロ千代田線の都心方面への直通化にともなうファミリー向けマンションの開発による人口増加は一段落ついたと思われませんが、今後数年間は緩やかな転入超過が続くと予測しました。
- ・今後、地区計画をかけて賑わいの創出、商業・業務系の誘導に取り組み、駅前交通広場が整備された際にはバス路線の誘致も予定しています。駅周辺には生産緑地などの低未利用地が存在するため、今後5～6年後から再び一定期間、開発人口が増える可能性があります。

##### ④ 竹の塚エリア

- ・東武スカイツリーライン竹ノ塚駅周辺の高架化は、令和3年度末に踏切が除却される予定で工事が進んでいます。
- ・エリア全体の開発戸数は横ばいに近い状況ですが、単身者向けのマンションが着実に伸びています。
- ・高架化工事完成後に、周辺まちづくりが進んだ場合には、令和5年以降に一定期間、開発人口が増える可能性があります。

- ・URによる団地の再生計画（第1団地から第3団地）については、建替えが行われても、総戸数は現状維持か微減と見込まれます。ただし、入居者の年齢層が若返り人口構成が変わると考えられることから、10～20年後以降には変化が生じる可能性があります。

#### ⑤ 六町エリア

- ・六町エリアについては、現在、区画整理事業が進行中で移動率の算定が難しいため、今回の推計の最終年次の令和47年の人口規模を概ね区画整理事業開始前の人口規模と仮定して推計しました。

#### ⑥ 花畑エリア

- ・令和3年度に文教大学東京あだちキャンパスの開設が予定されています。
- ・現在のUR団地の区画（花畑四丁目・花畑五丁目）については、将来の解体後は大規模共同住宅ではなく、質の高い戸建て住宅地が形成されることを想定して人口減少を見込みました。

#### ⑦ 江北エリア

- ・令和3年度に東京女子医大新東医療センターの開設が予定されています。
- ・平成28年からの3年間で開発戸数が約66%増加しています。また、平成30年においても開発戸数におけるファミリー向けの割合が約40%と高くなっており、緩やかな人口増加傾向が続いています。
- ・東京女子医大新東医療センターを核としたまちづくりを進めており、今後、バス路線の整備、賑わいの誘導、道路の拡幅・新規整備、新施設建設、公園の整備などが予定されています。そのため、今後数年間は現在と同程度の人口増加傾向が続くと予測しました。

#### ⑧ 西新井・梅島エリア

- ・平成28年からの3年間で、開発戸数は約53%増加しています。開発戸数におけるファミリー向け、単身者向けの割合は区全体の平均に近く、緩やかな人口増加傾向が続いています。大規模な開発計画はありませんが、今後数年間は現在と同程度の人口増加傾向が続くと予測しました。

### Ⅲ 推計結果

#### 1 全体推計結果

##### (1) 総人口

- ・総人口のピークは、低位推計では令和7年、中位推計では令和12年、高位推計では令和14年と見込まれます。
- ・30年後の令和32年には、中位推計で、675,935人。令和元年と比較して、98.2%（12,577人減）になります。
- ・中位推計と低位推計の差が少ないのは、今後、足立区において大幅な転出超過が生じることが考えにくいことから、低位推計では社会動態による人口減少の予測を転出入数が均衡するレベルに抑えているためです。高位推計では、中位推計に対して将来の転入超過のレベルをやや高めに仮定しています。

ピークの年に網掛けをしています (人)

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
高位推計	688,512	691,920	695,608	699,358	702,988	706,213	709,127	711,670	713,764	715,757	717,333	718,848
中位推計	688,512	691,847	695,046	698,239	701,253	703,862	706,159	707,687	709,072	709,701	709,920	710,079
低位推計	688,512	691,775	694,372	696,906	699,216	701,125	702,708	702,618	702,378	701,887	700,983	700,005

	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24
高位推計	719,446	719,619	719,538	719,223	718,866	717,487	715,979	714,302	712,441	710,535	709,410	708,157
中位推計	709,233	707,962	706,406	704,629	702,820	700,992	699,024	696,900	694,600	692,263	691,104	689,807
低位推計	699,127	697,827	696,254	694,465	692,631	690,778	688,785	686,632	684,313	681,943	680,745	679,418

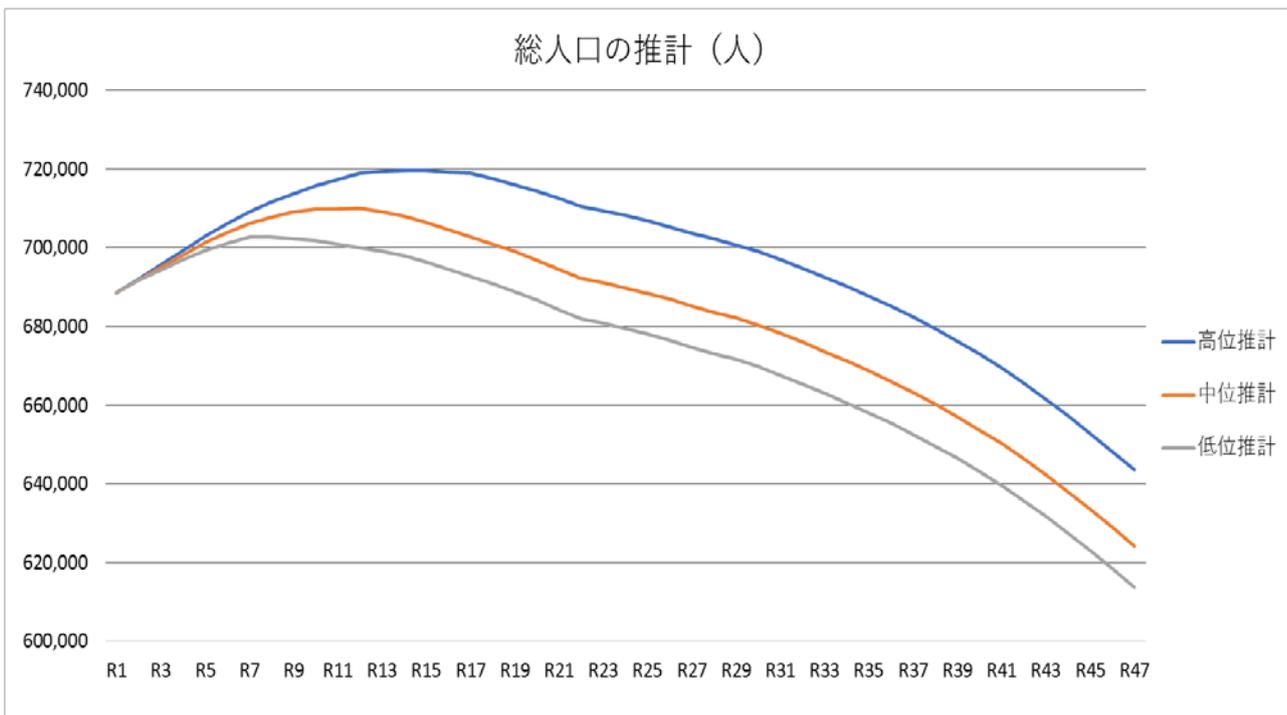
  

	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31	R32	R33	R34	R35	R36
高位推計	706,782	705,317	703,735	702,186	700,778	699,165	697,015	694,804	692,443	690,147	687,713	685,087
中位推計	688,399	686,889	685,246	683,632	682,147	680,459	678,220	675,935	673,513	671,152	668,665	665,990
低位推計	677,969	676,427	674,754	673,114	671,604	669,890	667,633	665,349	662,924	660,557	658,058	655,375

	R37	R38	R39	R40	R41	R42	R43	R44	R45	R46	R47
高位推計	682,335	679,431	676,348	673,004	669,469	665,567	661,503	657,243	652,830	648,216	643,508
中位推計	663,190	660,243	657,120	653,730	650,159	646,244	642,165	637,902	633,489	628,870	624,175
低位推計	652,569	649,630	646,518	643,143	639,587	635,679	631,621	627,380	622,995	618,420	613,765

※R1は実績値 R2以降は推計値



## (2) 日本人人口

- ・日本人人口のピークは、低位推計では令和5年、中位推計では令和7年、高位推計では令和8年と見込まれます。
- ・30年後の令和32年には、中位推計で、600,385人。令和元年と比較して、91.4%（56,525人減）になります。

ピークの年に網掛けをしています (人)

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
高位推計	656,910	658,020	659,513	661,065	662,505	663,545	664,281	664,641	664,550	664,362	663,767	663,110
中位推計	656,910	657,947	658,950	659,946	660,770	661,194	661,313	660,658	659,859	658,306	656,354	654,340
低位推計	656,910	657,874	658,276	658,614	658,732	658,457	657,861	656,603	655,202	653,556	651,513	649,400

	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24
高位推計	661,536	659,542	657,300	654,836	652,342	649,845	647,234	644,475	641,554	638,612	636,463	634,212
中位推計	652,335	649,918	647,235	644,346	641,437	638,518	635,479	632,301	628,965	625,612	623,449	621,176
低位推計	647,394	644,977	642,300	639,418	636,503	633,576	630,524	627,332	623,993	620,621	618,431	616,131

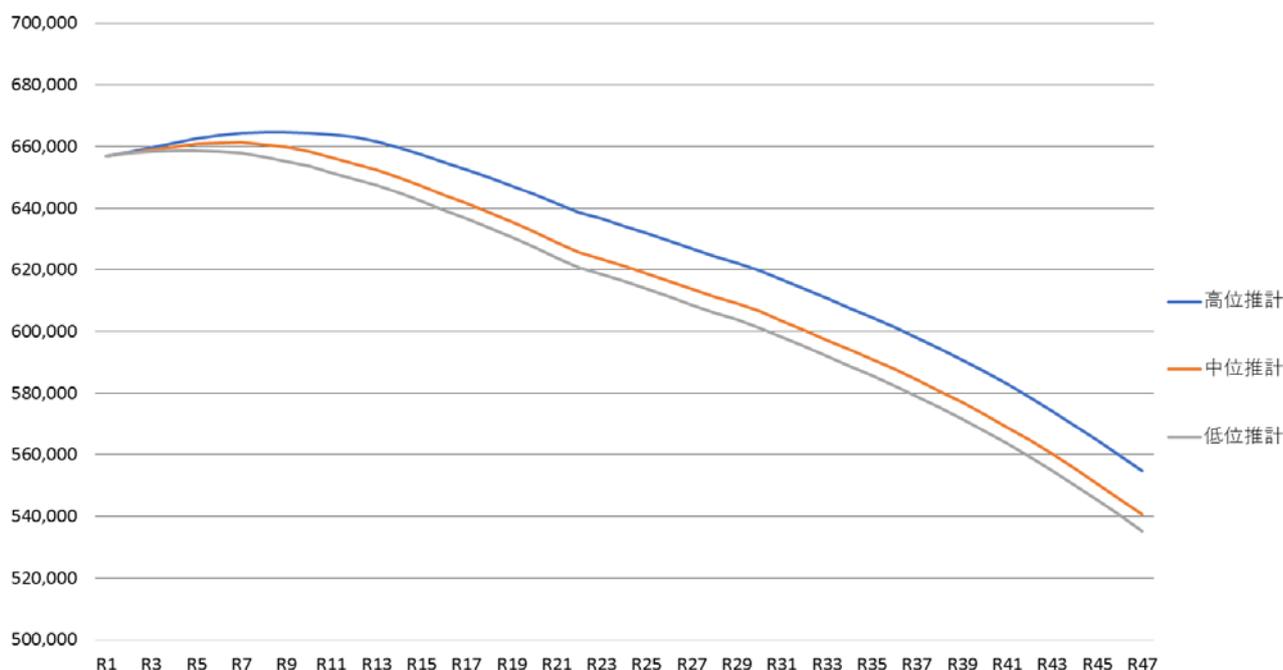
	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31	R32	R33	R34	R35	R36
高位推計	631,862	629,454	626,955	624,510	622,231	619,775	616,817	613,826	610,717	607,698	604,576	601,298
中位推計	618,811	616,371	613,826	611,330	608,990	606,474	603,440	600,385	597,222	594,142	590,967	587,638
低位推計	613,731	611,262	608,687	606,164	603,797	601,248	598,188	595,122	591,943	588,846	585,646	582,299

	R37	R38	R39	R40	R41	R42	R43	R44	R45	R46	R47
高位推計	597,928	594,441	590,813	586,955	582,942	578,597	574,127	569,496	564,740	559,822	554,852
中位推計	584,215	580,674	576,994	573,077	569,011	564,636	560,129	555,469	550,684	545,735	540,750
低位推計	578,854	575,304	571,613	567,688	563,614	559,220	554,704	550,035	545,244	540,300	535,314

※R1は実績値 R2以降は推計値

日本人人口の推計 (人)



### (3) 外国人人口

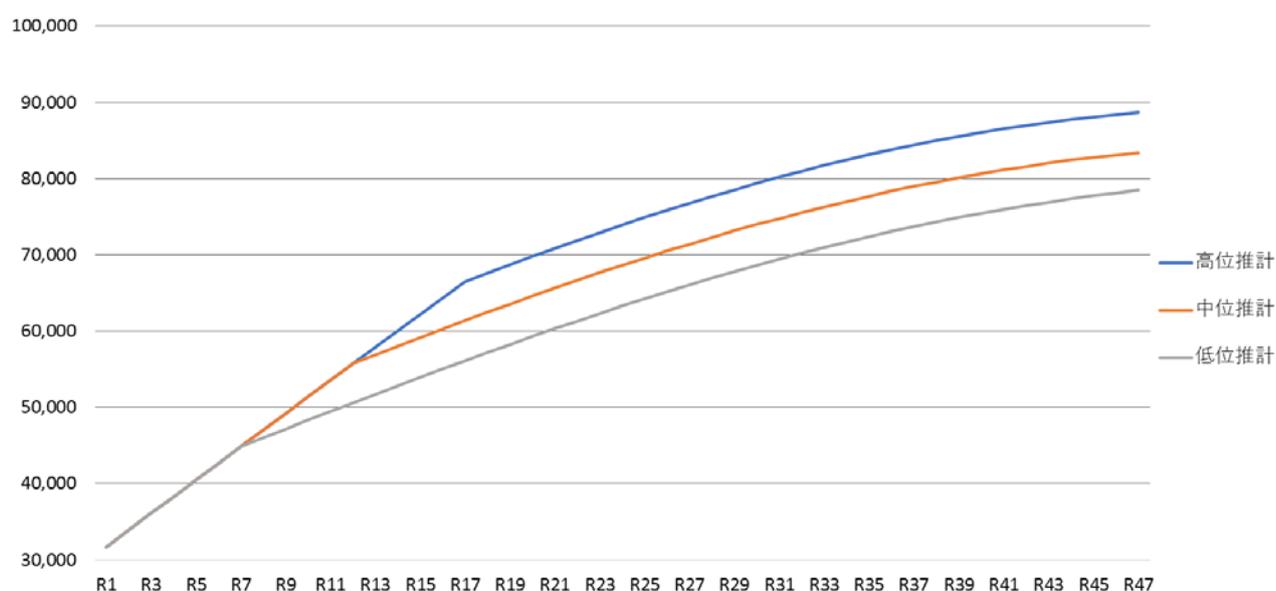
- 外国人については、低位推計では今後5年程度、中位推計では10年程度、高位推計では15年程度、現在の毎年2,000人程度の転入超過傾向が続き、それ以降は、毎年1,000人程度の転入超過に推移し、平準化していくと仮定しました。また、転出行動に関するデータがないため、転入後の外国人は定住するものと仮定しています。
- 今回の仮定に基づく推計結果では、推計最終年の令和47年には中位推計で83,425人、総人口に対する外国人比率は13.4%となりますが、経済情勢や国の施策等により大きく変動する可能性があります。
- 外国人人口については、統計資料が不足しているため、次期人口推計の際には仮定値の見直しを行うことを前提としています。

(人)

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
高位推計	31,602	33,901	36,095	38,293	40,483	42,668	44,847	47,029	49,213	51,395	53,566	55,739
中位推計	31,602	33,901	36,095	38,293	40,483	42,668	44,847	47,029	49,213	51,395	53,566	55,739
低位推計	31,602	33,901	36,095	38,293	40,483	42,668	44,847	46,016	47,176	48,331	49,471	50,604
	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24
高位推計	57,910	60,077	62,238	64,387	66,524	67,642	68,745	69,827	70,887	71,923	72,947	73,945
中位推計	56,898	58,044	59,171	60,283	61,383	62,474	63,545	64,599	65,635	66,651	67,655	68,631
低位推計	51,733	52,850	53,954	55,046	56,128	57,202	58,261	59,300	60,320	61,322	62,313	63,286
	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31	R32	R33	R34	R35	R36
高位推計	74,920	75,864	76,781	77,676	78,546	79,390	80,199	80,977	81,726	82,448	83,137	83,789
中位推計	69,587	70,518	71,421	72,302	73,158	73,984	74,780	75,550	76,292	77,010	77,698	78,352
低位推計	64,238	65,165	66,067	66,950	67,807	68,642	69,445	70,227	70,981	71,712	72,411	73,077
	R37	R38	R39	R40	R41	R42	R43	R44	R45	R46	R47	
高位推計	84,407	84,990	85,535	86,049	86,527	86,970	87,376	87,746	88,090	88,394	88,656	
中位推計	78,975	79,569	80,126	80,653	81,148	81,608	82,036	82,433	82,804	83,136	83,425	
低位推計	73,716	74,326	74,905	75,455	75,974	76,459	76,917	77,344	77,751	78,120	78,451	

※R1は実績値 R2以降は推計値

外国人人口の推計 (人)



#### (4) 年齢3区分別人口の推移 【総人口・中位推計】

- ・総人口は、令和12年の710,079人をピークに減少に転じ、令和47年には624,175人まで減少しますが、高齢者人口は大幅に増加を続けていきます。
- ・高齢者人口のピークは、令和42年の251,398人で、総人口に占める高齢化率は38.9%になります。その後は、区全体の人口規模が縮小していくことともない減少に転じます。
- ・生産年齢人口は、令和9年をピークに減少に転じる見込みです。年少人口は、ほぼ一定のペースで減少を続けていきます。

中位推計における年齢3区分別人口の推移(人)



## 2 高齢者数の推計（65歳以上） 【総人口】

### （1）高齢者人口（65歳以上）

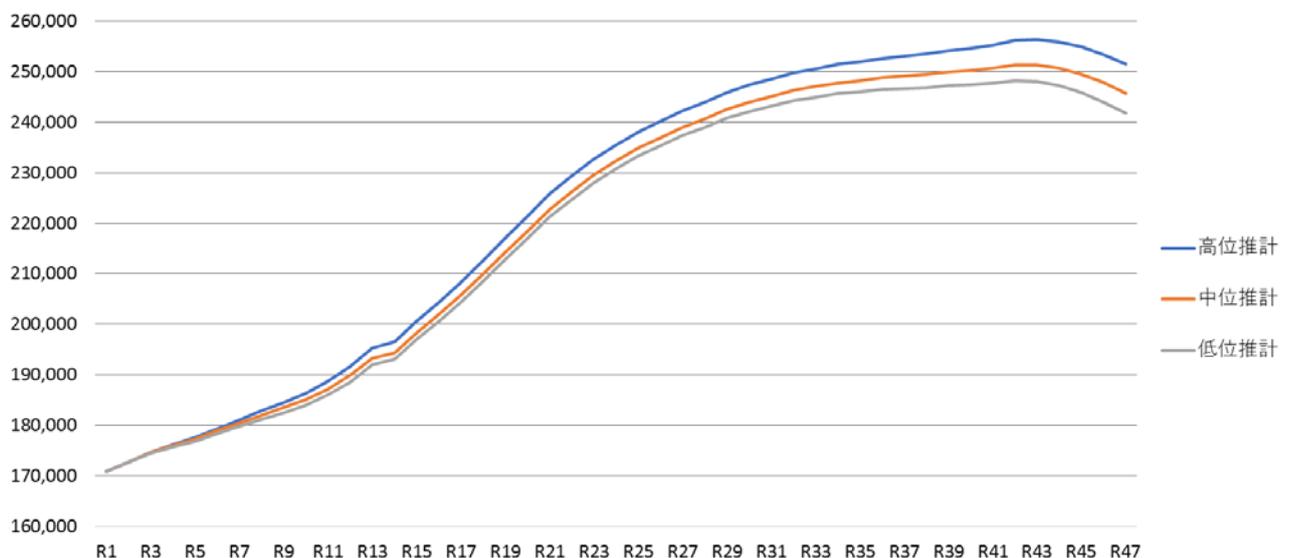
- ・高齢者数については、低位・中位・高位のいずれの推計でも、令和42～43年まで増加します。その後は、区全体の人口規模が縮小していくことにもともない減少していきます。
- ・30年後の令和32年には、中位推計で、246,271人。令和元年と比較して、144.1%（75,381人増）になります。
- ・急増している外国人について、今回の推計では転入後に定住するものと仮定しています。足立区全体の外国人の年齢別の人口構成を見ると、現在は20歳代後半から30歳代の割合が高くなっていますが、今後65歳以上となる人が少しずつ増えていくため、将来的には外国人の高齢者数が大幅に増加します。

ピークの年に網掛けをしています (人)

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
高位推計	170,890	172,771	174,649	176,203	177,547	179,380	181,037	182,833	184,432	186,378	188,728	191,718
中位推計	170,890	172,758	174,537	175,980	177,205	178,918	180,455	182,032	183,485	185,134	187,190	189,881
低位推計	170,890	172,744	174,397	175,706	176,792	178,366	179,763	181,160	182,430	184,017	186,004	188,616
	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24
高位推計	195,286	196,462	200,536	204,333	208,293	212,642	216,998	221,456	225,796	229,442	232,710	235,562
中位推計	193,316	194,374	198,297	201,940	205,738	209,966	214,199	218,529	222,741	226,261	229,522	232,369
低位推計	192,041	193,096	197,000	200,623	204,398	208,598	212,802	217,101	221,280	224,768	227,994	230,802
	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31	R32	R33	R34	R35	R36
高位推計	238,072	240,214	242,267	244,011	245,905	247,380	248,523	249,752	250,609	251,440	251,999	252,666
中位推計	234,871	237,000	239,034	240,750	242,600	244,026	245,112	246,271	247,056	247,800	248,268	248,829
低位推計	233,262	235,342	237,327	238,992	240,785	242,152	243,174	244,262	244,969	245,629	246,004	246,465
	R37	R38	R39	R40	R41	R42	R43	R44	R45	R46	R47	
高位推計	253,079	253,484	254,118	254,673	255,205	256,174	256,339	255,910	254,930	253,430	251,525	
中位推計	249,132	249,409	249,898	250,291	250,644	251,398	251,354	250,720	249,535	247,834	245,726	
低位推計	246,664	246,831	247,202	247,467	247,680	248,275	248,068	247,265	245,911	244,042	241,772	

※R1は実績値 R2以降は推計値

高齢者人口（65歳以上）の推計（人）



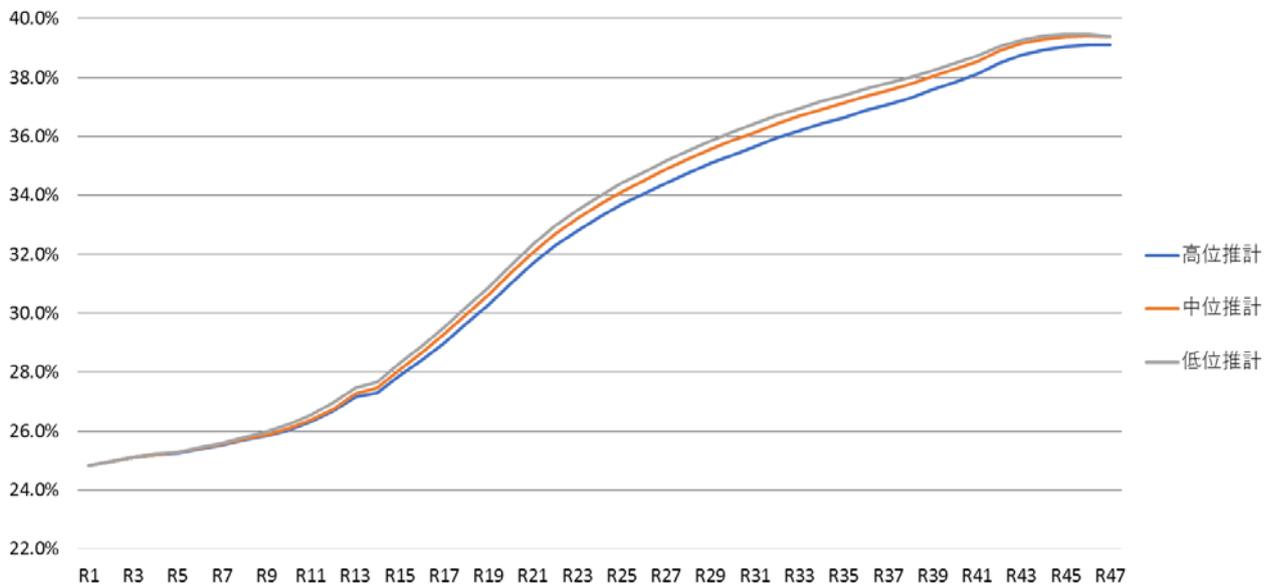
## (2) 高齢者比率(65歳以上)

- ・高齢者比率(高齢化率)は、中位推計では令和45年まで引き続き上昇していきます。
- ・30年後の令和32年には、中位推計で、36.4%。令和元年と比較して、11.6ポイント増になります。なお、低位推計、中位推計、高位推計の順に高齢者比率(高齢化率)が高くなるのは、将来的に社会動態による人口流入が少なくなると見込む分、若年層の人口が減少するためです。

	ピークの年に網掛けをしています (%)											
	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
高位推計	24.8%	25.0%	25.1%	25.2%	25.3%	25.4%	25.5%	25.7%	25.8%	26.0%	26.3%	26.7%
中位推計	24.8%	25.0%	25.1%	25.2%	25.3%	25.4%	25.6%	25.7%	25.9%	26.1%	26.4%	26.7%
低位推計	24.8%	25.0%	25.1%	25.2%	25.3%	25.4%	25.6%	25.8%	26.0%	26.2%	26.5%	26.9%
	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24
高位推計	27.1%	27.3%	27.9%	28.4%	29.0%	29.6%	30.3%	31.0%	31.7%	32.3%	32.8%	33.3%
中位推計	27.3%	27.5%	28.1%	28.7%	29.3%	30.0%	30.6%	31.4%	32.1%	32.7%	33.2%	33.7%
低位推計	27.5%	27.7%	28.3%	28.9%	29.5%	30.2%	30.9%	31.6%	32.3%	33.0%	33.5%	34.0%
	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31	R32	R33	R34	R35	R36
高位推計	33.7%	34.1%	34.4%	34.8%	35.1%	35.4%	35.7%	35.9%	36.2%	36.4%	36.6%	36.9%
中位推計	34.1%	34.5%	34.9%	35.2%	35.6%	35.9%	36.1%	36.4%	36.7%	36.9%	37.1%	37.4%
低位推計	34.4%	34.8%	35.2%	35.5%	35.9%	36.1%	36.4%	36.7%	37.0%	37.2%	37.4%	37.6%
	R37	R38	R39	R40	R41	R42	R43	R44	R45	R46	R47	
高位推計	37.1%	37.3%	37.6%	37.8%	38.1%	38.5%	38.8%	38.9%	39.0%	39.1%	39.1%	
中位推計	37.6%	37.8%	38.0%	38.3%	38.6%	38.9%	39.1%	39.3%	39.4%	39.4%	39.4%	
低位推計	37.8%	38.0%	38.2%	38.5%	38.7%	39.1%	39.3%	39.4%	39.5%	39.5%	39.4%	

※R1は実績値 R2以降は推計値

高齢者比率(65歳以上)の推計(%)



### (3) 後期高齢者人口（75歳以上）

- ・後期高齢者数は、中位推計では令和11年に一度ピークを迎え、その後一時減少傾向になりますが、令和18年から再度上昇します。
- ・一時的に減少する理由は、現在人口が比較的少ない50歳代後半から60歳代前半の世代が75歳以上となる時、後期高齢者としての増加者数よりも後期高齢者全体の死亡者数のほうが上回る現象が生じるためです。
- ・後期高齢者数のピークは、低位・中位・高位のいずれの推計でも令和39年度で、その後は、区全体の人口規模が縮小していくことともない減少していきます。
- ・30年後の令和32年には、中位推計で、149,841人。令和元年と比較して、167.8%（60,526人増）になります。

ピークの年に網掛けをしています (人)

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
高位推計	89,315	92,741	94,389	96,632	101,732	105,989	110,208	112,850	114,708	116,069	116,661	116,780
中位推計	89,315	92,731	94,310	96,473	101,481	105,644	109,767	112,243	113,995	115,134	115,511	115,424
低位推計	89,315	92,722	94,212	96,279	101,179	105,232	109,244	111,607	113,249	114,377	114,743	114,644

	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24
高位推計	116,804	116,461	115,676	115,426	115,062	115,228	115,356	115,808	116,669	118,294	120,936	121,489
中位推計	115,410	115,030	114,215	113,930	113,527	113,665	113,763	114,180	115,000	116,570	119,227	119,814
低位推計	114,656	114,300	113,508	113,240	112,850	112,993	113,090	113,503	114,314	115,868	118,502	119,072

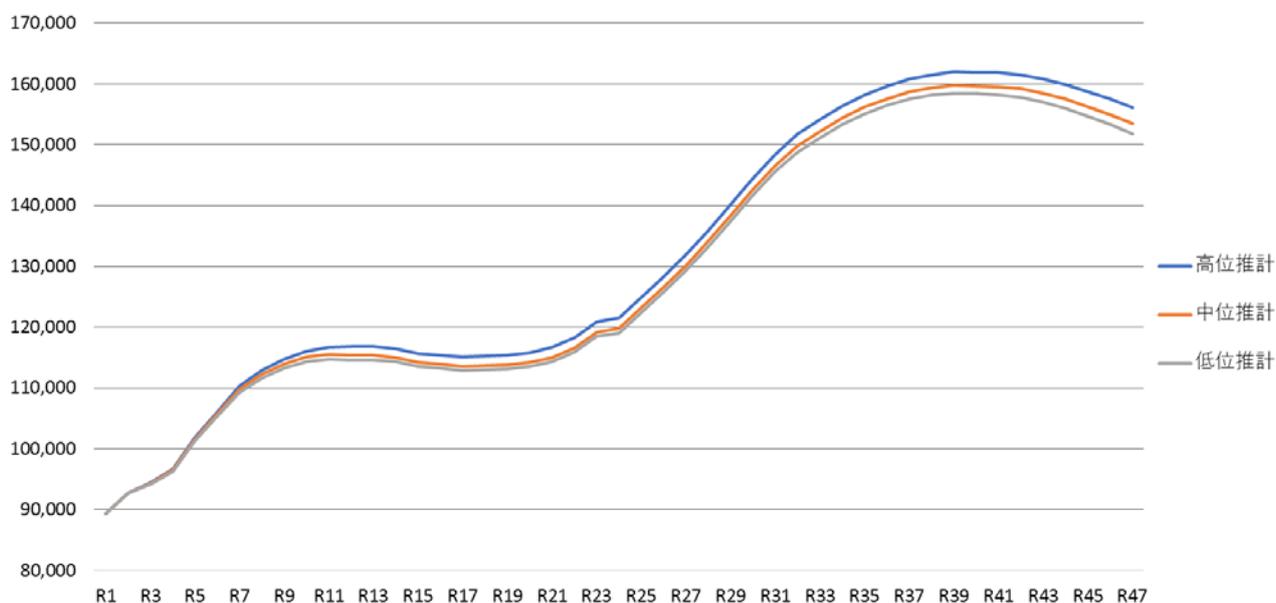
	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31	R32	R33	R34	R35	R36
高位推計	124,948	128,309	131,958	135,863	140,140	144,505	148,447	151,771	154,156	156,414	158,268	159,671
中位推計	123,264	126,612	130,237	134,109	138,340	142,658	146,557	149,841	152,189	154,408	156,227	157,595
低位推計	122,490	125,805	129,395	133,231	137,426	141,708	145,570	148,822	151,139	153,326	155,111	156,443

	R37	R38	R39	R40	R41	R42	R43	R44	R45	R46	R47
高位推計	160,848	161,514	161,974	161,926	161,842	161,543	160,887	159,944	158,670	157,498	156,121
中位推計	158,738	159,369	159,789	159,702	159,568	159,217	158,510	157,509	156,177	154,936	153,489
低位推計	157,550	158,146	158,528	158,403	158,226	157,828	157,069	156,011	154,617	153,307	151,789

※R1は実績値 R2以降は推計値

後期高齢者人口（75歳以上）の推計（人）



#### (4) 後期高齢者比率（75歳以上）

- ・後期高齢者比率については、低位・中位・高位のいずれの推計でも、令和42～43年がピークとなります。
- ・30年後の令和32年には、中位推計で、22.2%。令和元年と比較して、9.2ポイント増になります。なお、低位推計、中位推計、高位推計の順に後期高齢者比率が高くなるのは、将来的に社会動態による人口流入が少なくなると見込む分、若年層の人口が減少するためです。

ピークの年に網掛けをしています (%)

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
高位推計	13.0%	13.4%	13.6%	13.8%	14.5%	15.0%	15.5%	15.9%	16.1%	16.2%	16.3%	16.2%
中位推計	13.0%	13.4%	13.6%	13.8%	14.5%	15.0%	15.5%	15.9%	16.1%	16.2%	16.3%	16.3%
低位推計	13.0%	13.4%	13.6%	13.8%	14.5%	15.0%	15.5%	15.9%	16.1%	16.3%	16.4%	16.4%

	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24
高位推計	16.2%	16.2%	16.1%	16.0%	16.0%	16.1%	16.1%	16.2%	16.4%	16.6%	17.0%	17.2%
中位推計	16.3%	16.2%	16.2%	16.2%	16.2%	16.2%	16.3%	16.4%	16.6%	16.8%	17.3%	17.4%
低位推計	16.4%	16.4%	16.3%	16.3%	16.3%	16.4%	16.4%	16.5%	16.7%	17.0%	17.4%	17.5%

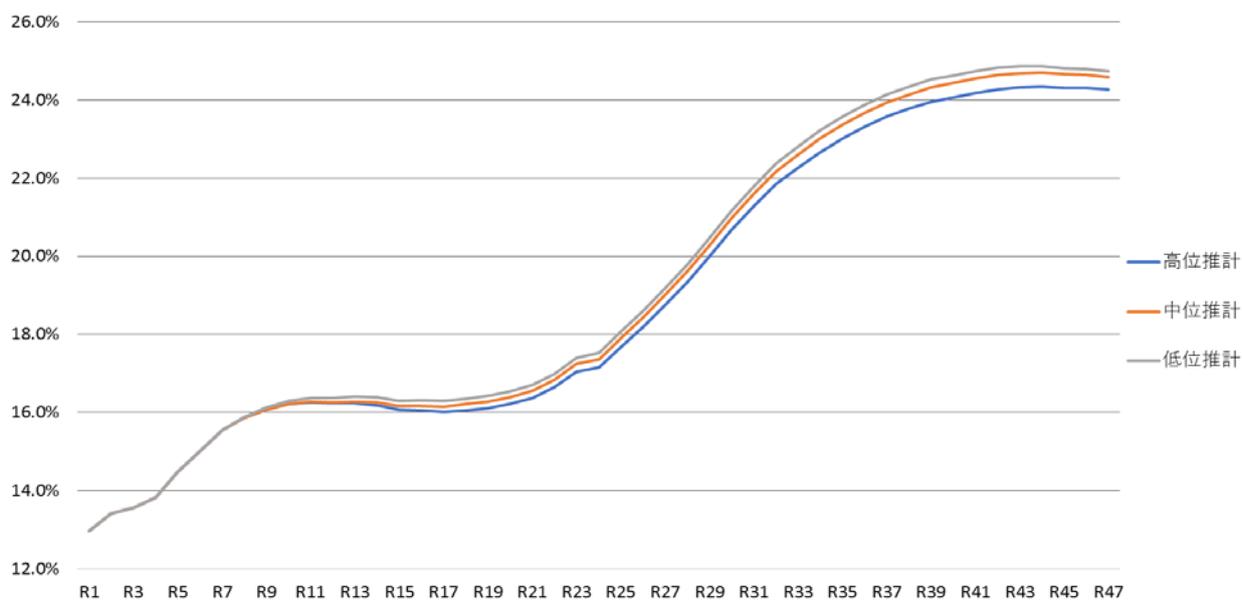
	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31	R32	R33	R34	R35	R36
高位推計	17.7%	18.2%	18.8%	19.3%	20.0%	20.7%	21.3%	21.8%	22.3%	22.7%	23.0%	23.3%
中位推計	17.9%	18.4%	19.0%	19.6%	20.3%	21.0%	21.6%	22.2%	22.6%	23.0%	23.4%	23.7%
低位推計	18.1%	18.6%	19.2%	19.8%	20.5%	21.2%	21.8%	22.4%	22.8%	23.2%	23.6%	23.9%

	R37	R38	R39	R40	R41	R42	R43	R44	R45	R46	R47
高位推計	23.6%	23.8%	23.9%	24.1%	24.2%	24.3%	24.3%	24.3%	24.3%	24.3%	24.3%
中位推計	23.9%	24.1%	24.3%	24.4%	24.5%	24.6%	24.7%	24.7%	24.7%	24.6%	24.6%
低位推計	24.1%	24.3%	24.5%	24.6%	24.7%	24.8%	24.9%	24.9%	24.8%	24.8%	24.7%

※R1 は実績値 R2 以降は推計値

後期高齢者比率（75歳以上）の推計（%）



### 3 生産年齢者数の推計（15～64歳） 【総人口】

#### （1）生産年齢者人口

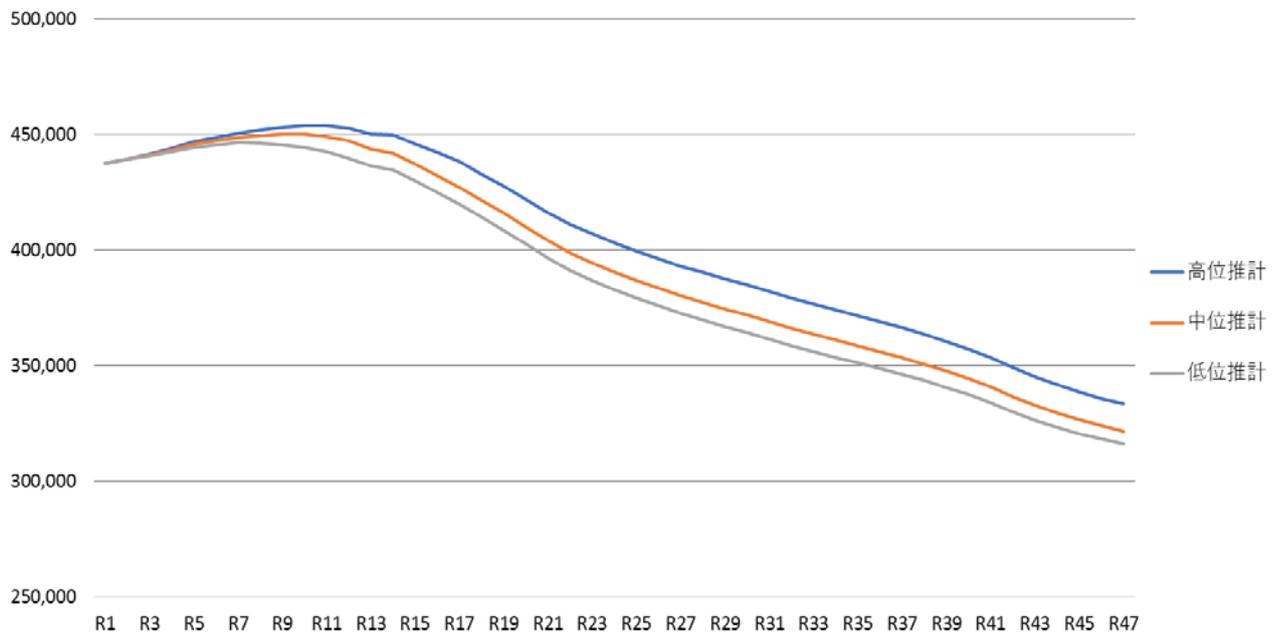
- ・生産年齢者数については、低位推計では令和7年、中位推計では令和9年、高位推計では令和10年をピークに減少することが見込まれます。
- ・30年後の令和32年には、中位推計で、366,069人。令和元年と比較して、83.7%（71,327人減）になります。

ピークの年に掛けをしています (人)

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
高位推計	437,396	439,338	441,311	443,970	446,675	448,676	450,524	451,893	453,042	453,745	453,589	452,483
中位推計	437,396	439,291	440,952	443,262	445,575	447,182	448,633	449,363	450,061	449,918	448,922	446,978
低位推計	437,396	439,243	440,522	442,414	444,277	445,431	446,429	445,944	445,432	444,396	442,508	439,678
	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24
高位推計	450,100	449,551	445,773	441,963	438,005	432,809	427,450	421,794	416,044	410,902	406,757	402,913
中位推計	443,490	441,821	436,952	432,049	426,994	421,518	415,878	409,944	403,921	398,502	394,302	390,392
低位推計	436,187	434,505	429,634	424,724	419,654	414,152	408,479	402,513	396,464	391,000	386,766	382,821
	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31	R32	R33	R34	R35	R36
高位推計	399,331	396,030	392,895	390,115	387,332	384,788	382,005	379,160	376,520	373,980	371,577	368,864
中位推計	386,719	383,327	380,100	377,244	374,398	371,769	368,934	366,069	363,418	360,865	358,467	355,781
低位推計	379,118	375,709	372,466	369,608	366,766	364,155	361,352	358,517	355,909	353,409	351,069	348,464
	R37	R38	R39	R40	R41	R42	R43	R44	R45	R46	R47	
高位推計	366,275	363,528	360,355	356,949	353,355	348,903	345,058	341,588	338,506	335,735	333,255	
中位推計	353,232	350,545	347,449	344,160	340,695	336,403	332,724	329,419	326,504	323,886	321,586	
低位推計	345,992	343,393	340,410	337,236	333,912	329,787	326,286	323,169	320,447	318,025	315,937	

※R1は実績値 R2以降は推計値

生産年齢者人口の推計（人）



## (2) 生産年齢者比率

- ・生産年齢者比率については、低位・中位・高位のいずれの推計でも、令和4年にピークとなり、数年横ばいが続いた後、減少傾向に転じます。
- ・30年後の令和32年には、中位推計で、54.2%。令和元年と比較して、9.3ポイント減になります。

ピークの年に網掛けをしています (％)

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
高位推計	63.5%	63.5%	63.4%	63.5%	63.5%	63.5%	63.5%	63.5%	63.5%	63.4%	63.2%	62.9%
中位推計	63.5%	63.5%	63.4%	63.5%	63.5%	63.5%	63.5%	63.5%	63.5%	63.4%	63.2%	62.9%
低位推計	63.5%	63.5%	63.4%	63.5%	63.5%	63.5%	63.5%	63.5%	63.4%	63.3%	63.1%	62.8%

	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24
高位推計	62.6%	62.5%	62.0%	61.5%	60.9%	60.3%	59.7%	59.0%	58.4%	57.8%	57.3%	56.9%
中位推計	62.5%	62.4%	61.9%	61.3%	60.8%	60.1%	59.5%	58.8%	58.2%	57.6%	57.1%	56.6%
低位推計	62.4%	62.3%	61.7%	61.2%	60.6%	60.0%	59.3%	58.6%	57.9%	57.3%	56.8%	56.3%

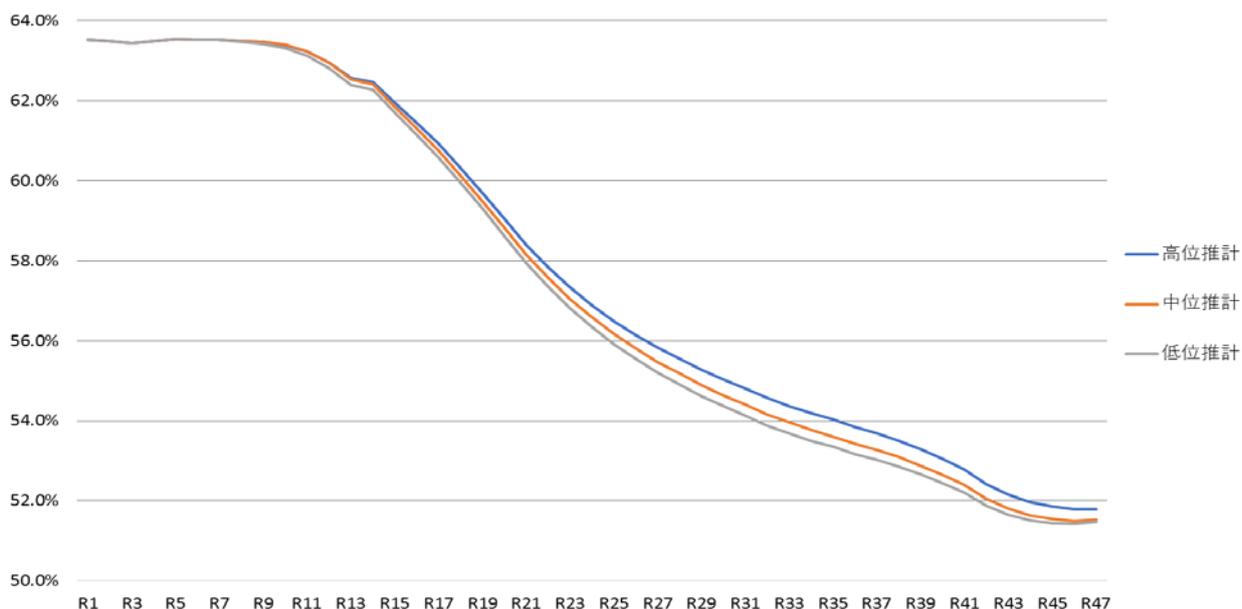
	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31	R32	R33	R34	R35	R36
高位推計	56.5%	56.1%	55.8%	55.6%	55.3%	55.0%	54.8%	54.6%	54.4%	54.2%	54.0%	53.8%
中位推計	56.2%	55.8%	55.5%	55.2%	54.9%	54.6%	54.4%	54.2%	54.0%	53.8%	53.6%	53.4%
低位推計	55.9%	55.5%	55.2%	54.9%	54.6%	54.4%	54.1%	53.9%	53.7%	53.5%	53.3%	53.2%

	R37	R38	R39	R40	R41	R42	R43	R44	R45	R46	R47
高位推計	53.7%	53.5%	53.3%	53.0%	52.8%	52.4%	52.2%	52.0%	51.9%	51.8%	51.8%
中位推計	53.3%	53.1%	52.9%	52.6%	52.4%	52.1%	51.8%	51.6%	51.5%	51.5%	51.5%
低位推計	53.0%	52.9%	52.7%	52.4%	52.2%	51.9%	51.7%	51.5%	51.4%	51.4%	51.5%

※R1 は実績値 R2 以降は推計値

生産年齢者比率の推計 (％)



## 4 年少者数の推計（0～14歳） 【総人口】

### （1）年少者人口

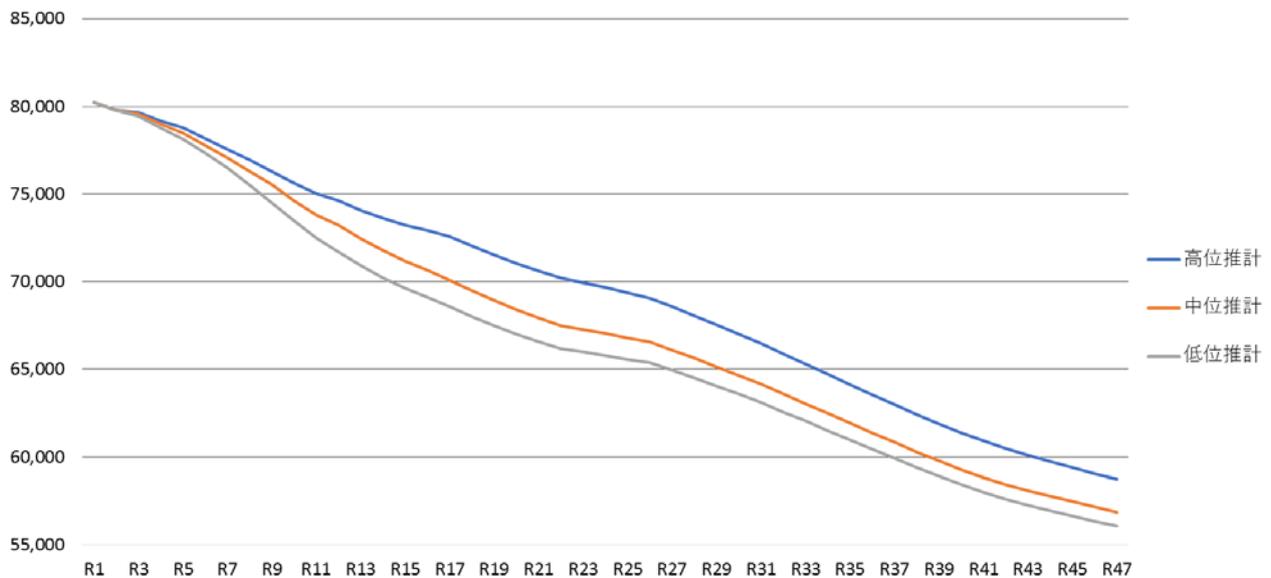
- ・年少者数については、低位・中位・高位のいずれの推計でも、今後ほぼ一定のペースで減少し続けていくことが見込まれます。
- ・30年後の令和32年には、中位推計で、63,595人。令和元年と比較して、79.3%（16,631人減）になります。

ピークの年に網掛けをしています (人)

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
高位推計	80,226	79,811	79,648	79,185	78,766	78,157	77,567	76,944	76,289	75,634	75,016	74,647
中位推計	80,226	79,799	79,557	78,997	78,473	77,762	77,071	76,291	75,526	74,649	73,807	73,220
低位推計	80,226	79,787	79,452	78,786	78,147	77,328	76,515	75,514	74,515	73,475	72,471	71,711
	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24
高位推計	74,061	73,607	73,230	72,927	72,568	72,036	71,531	71,052	70,601	70,192	69,943	69,681
中位推計	72,427	71,766	71,156	70,640	70,088	69,507	68,948	68,427	67,938	67,500	67,279	67,046
低位推計	70,899	70,226	69,619	69,118	68,580	68,029	67,504	67,018	66,570	66,175	65,985	65,795
	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31	R32	R33	R34	R35	R36
高位推計	69,379	69,074	68,574	68,060	67,541	66,997	66,487	65,892	65,314	64,727	64,137	63,558
中位推計	66,808	66,562	66,112	65,638	65,150	64,663	64,174	63,595	63,040	62,487	61,930	61,380
低位推計	65,589	65,375	64,961	64,514	64,053	63,583	63,106	62,570	62,046	61,520	60,986	60,446
	R37	R38	R39	R40	R41	R42	R43	R44	R45	R46	R47	
高位推計	62,981	62,420	61,876	61,382	60,909	60,490	60,106	59,745	59,394	59,051	58,729	
中位推計	60,826	60,289	59,773	59,279	58,820	58,443	58,087	57,764	57,450	57,150	56,863	
低位推計	59,914	59,405	58,906	58,440	57,995	57,618	57,268	56,946	56,637	56,352	56,056	

※R1は実績値 R2以降は推計値

年少者人口の推計（人）



## (2) 年少者比率

- ・年少者比率については、低位・中位・高位のいずれの推計でも、緩やかに減少を続けていきます。
- ・30年後の令和32年には、中位推計で、9.4%。令和元年と比較して、2.3ポイント減になります。

ピークの年に網掛けをしています (%)

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
高位推計	11.7%	11.5%	11.5%	11.3%	11.2%	11.1%	10.9%	10.8%	10.7%	10.6%	10.5%	10.4%
中位推計	11.7%	11.5%	11.4%	11.3%	11.2%	11.0%	10.9%	10.8%	10.7%	10.5%	10.4%	10.3%
低位推計	11.7%	11.5%	11.4%	11.3%	11.2%	11.0%	10.9%	10.7%	10.6%	10.5%	10.3%	10.2%

	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24
高位推計	10.3%	10.2%	10.2%	10.1%	10.1%	10.0%	10.0%	9.9%	9.9%	9.9%	9.9%	9.8%
中位推計	10.2%	10.1%	10.1%	10.0%	10.0%	9.9%	9.9%	9.8%	9.8%	9.8%	9.7%	9.7%
低位推計	10.1%	10.1%	10.0%	10.0%	9.9%	9.8%	9.8%	9.8%	9.7%	9.7%	9.7%	9.7%

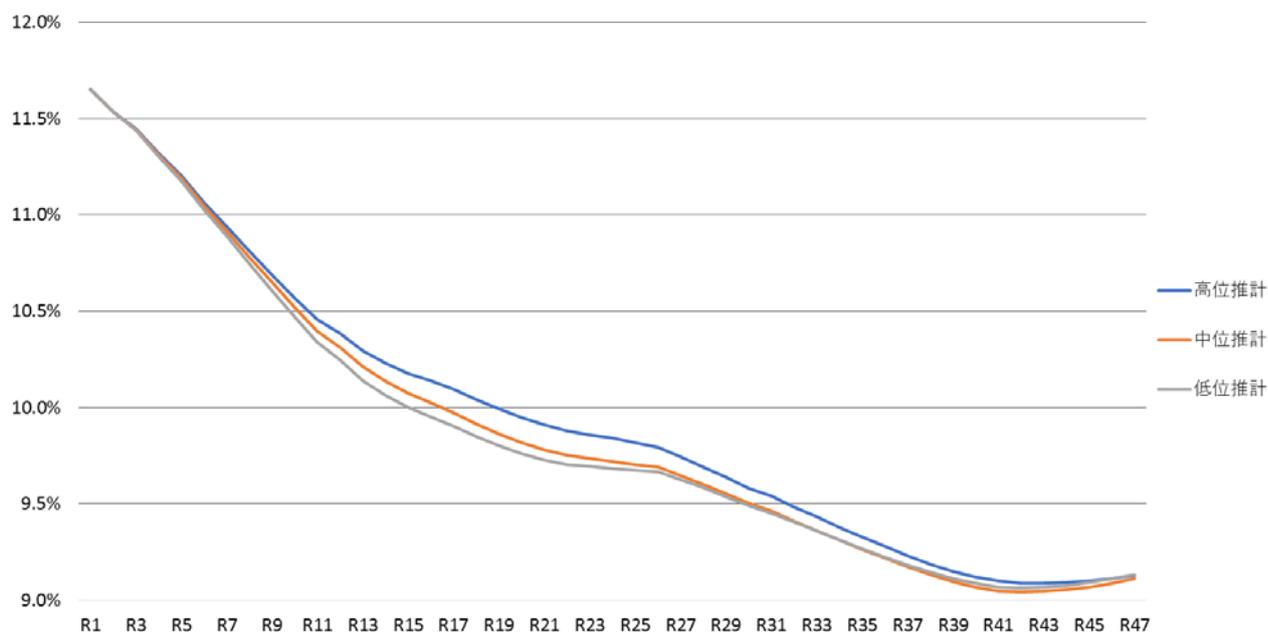
	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31	R32	R33	R34	R35	R36
高位推計	9.8%	9.8%	9.7%	9.7%	9.6%	9.6%	9.5%	9.5%	9.4%	9.4%	9.3%	9.3%
中位推計	9.7%	9.7%	9.6%	9.6%	9.6%	9.5%	9.5%	9.4%	9.4%	9.3%	9.3%	9.2%
低位推計	9.7%	9.7%	9.6%	9.6%	9.5%	9.5%	9.5%	9.4%	9.4%	9.3%	9.3%	9.2%

	R37	R38	R39	R40	R41	R42	R43	R44	R45	R46	R47
高位推計	9.2%	9.2%	9.1%	9.1%	9.1%	9.1%	9.1%	9.1%	9.1%	9.1%	9.1%
中位推計	9.2%	9.1%	9.1%	9.1%	9.0%	9.0%	9.0%	9.1%	9.1%	9.1%	9.1%
低位推計	9.2%	9.1%	9.1%	9.1%	9.1%	9.1%	9.1%	9.1%	9.1%	9.1%	9.1%

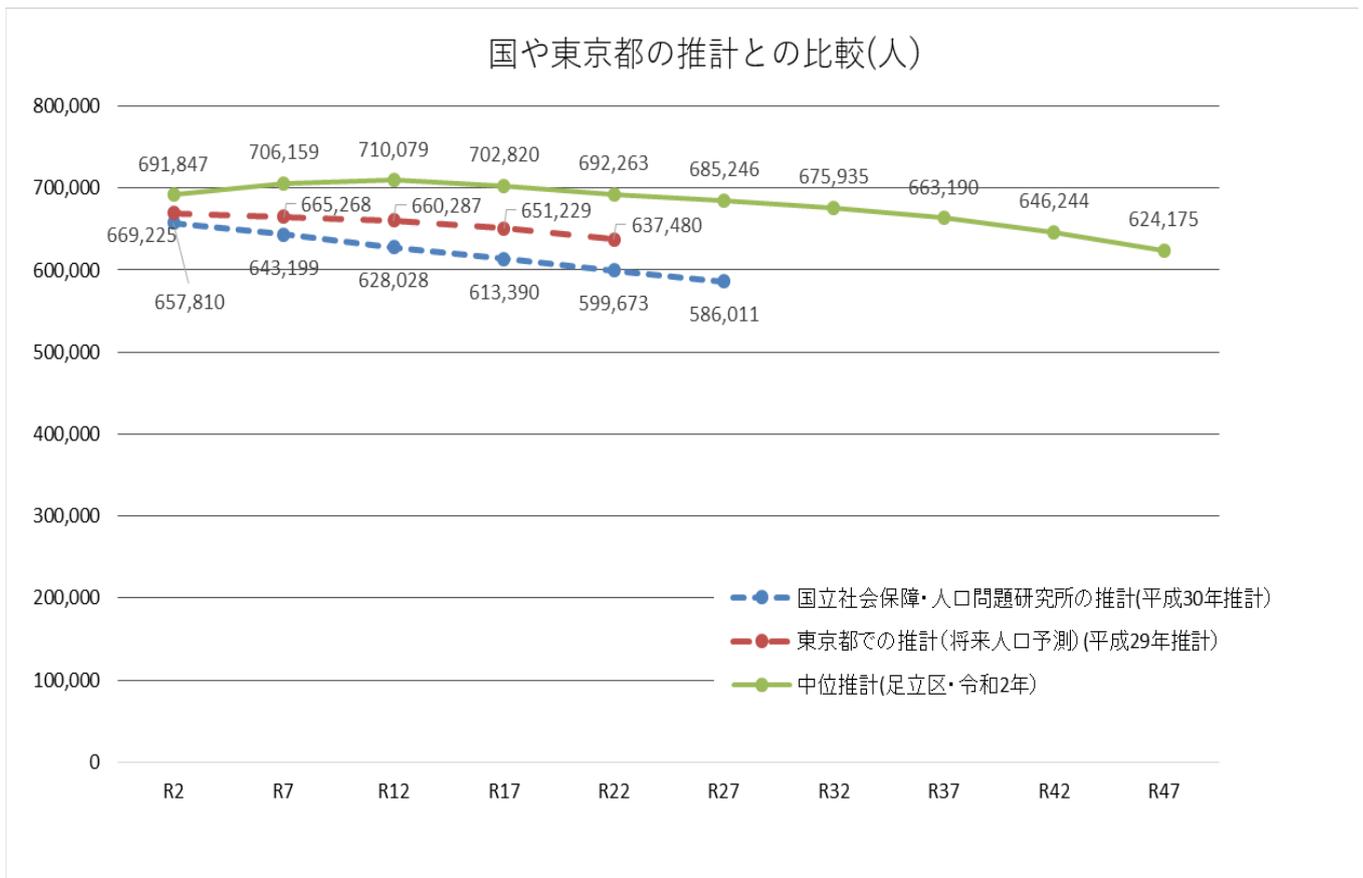
※R1 は実績値 R2 以降は推計値

年少者比率の推計 (%)



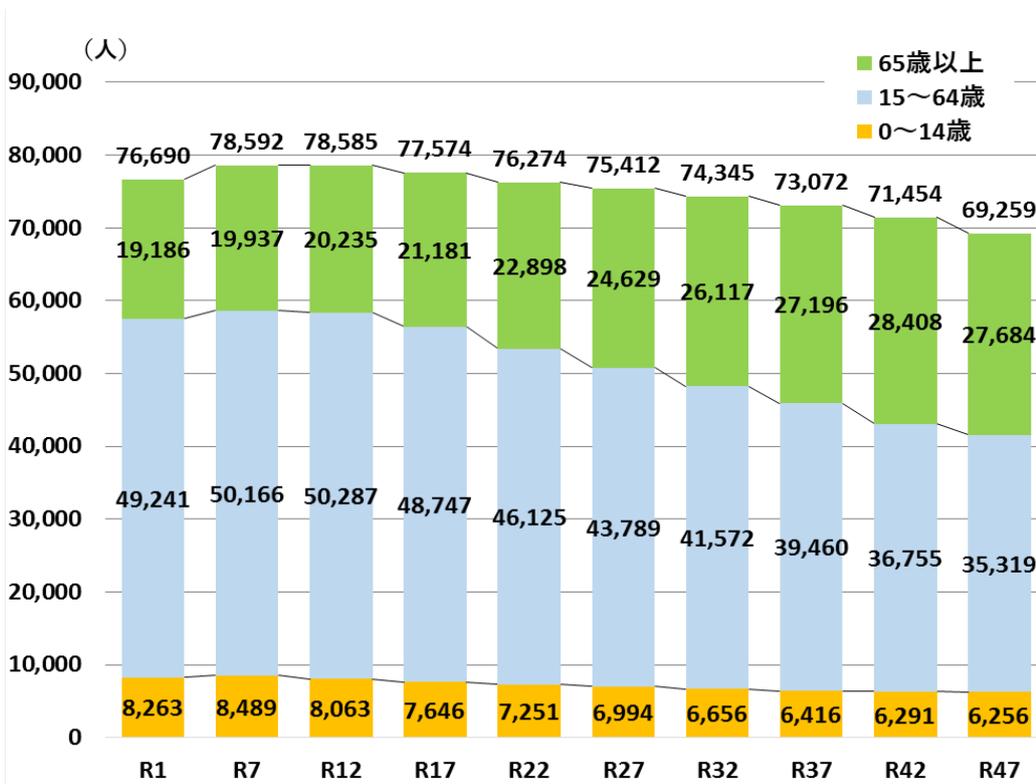
## 5 参考資料 1 国や東京都の推計との比較

- ・足立区の人口推計については、国立社会保障・人口問題研究所（平成 30 年 2 月実施）と東京都（平成 29 年 3 月実施）も推計結果を発表しています。
- ・それぞれ推計条件が異なるため、単純に比較することはできませんが、総人口が長期的に縮小しながら減少していく傾向では一致しています。

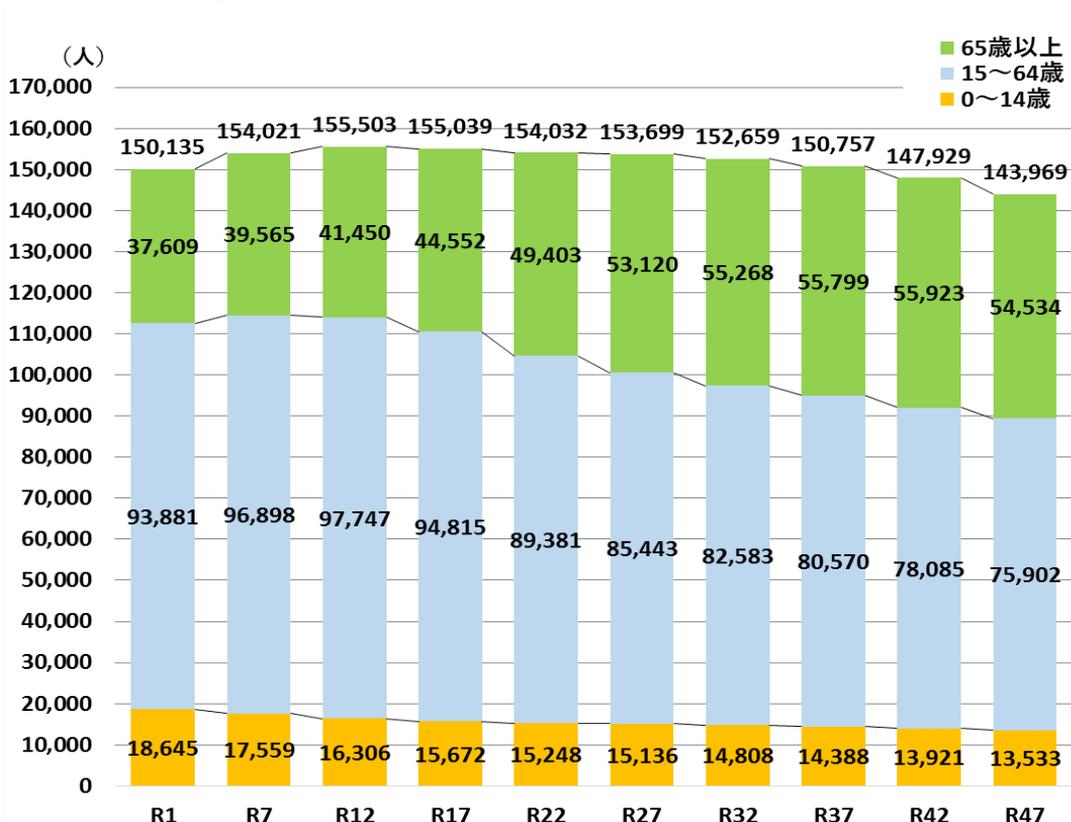


## 6 参考資料2 地域別 年齢3区分別人口の推移 【中位推計】

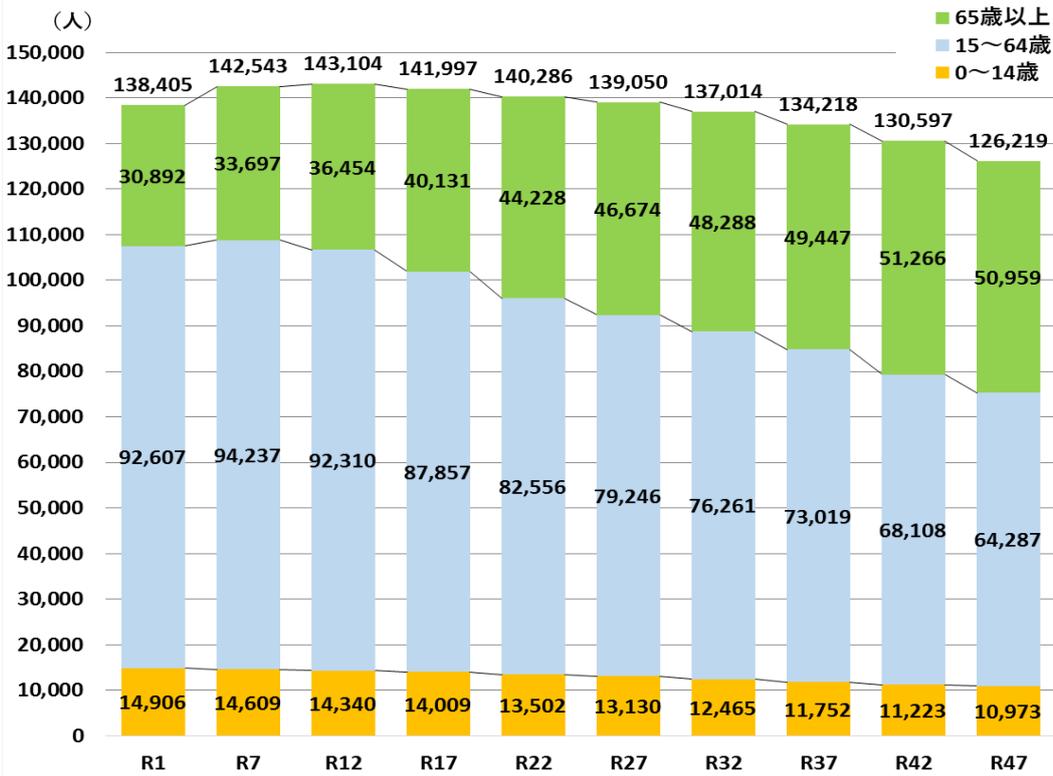
### 1 千住地域



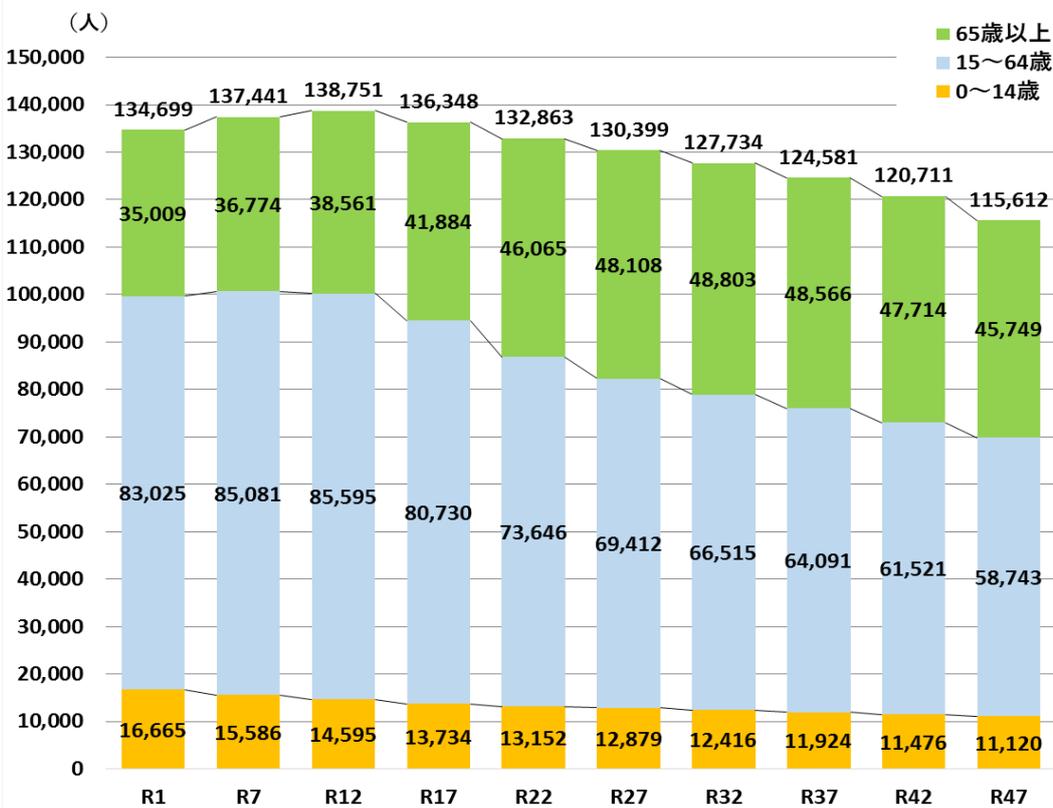
### 2 梅田・江北・新田地域



### 3 足立・綾瀬・中川地域



### 4 六町・花畑・大谷田地域



## 5 西新井・竹の塚・舎人地域

